

ひとはく通信

ハーモニー

117

Jun.2022

企画展

ひょうごの恐竜展

～タンパティタニスとヤマトサウルス～



兵庫県淡路地域から発見された
ヤマトサウルスの生体復元画

©服部雅人

人と自然の博物館
兵庫県立
Museum of Nature and Human Activities Hyogo
<http://hlohoku.jp>

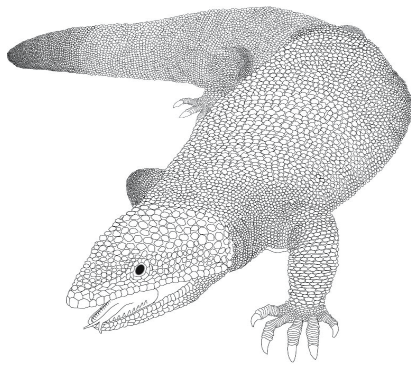
兵庫県丹波市、丹波篠山市に分布する篠山層群大山下層（前期白亜紀：約1億1千万年前）からは、多様な動物化石が複数の地点より発見されています。2015年には恐竜類の卵化石が発見されました。この発見を受け、2019年には同層を対象とした大規模な発掘調査が実施され、無数の卵・卵殻化石とともに、小動物の化石が副産物として複数確認されています。今回はこの副産物の研究からもたらされた思わぬ成果をご紹介します。

前述した調査によってトカゲ類化石が複数採集されており、その中に下顎の一部（歯骨）が確認されました。これまでに大山下層からは複数タイプのトカゲ類が報告されていますが、この

化石は歯や歯列部の形態が既報のトカゲ類とは明らかに異なります。さらに詳細な検討を進めたところ、歯や歯棚の特徴からモンスターサウリア類（ドクトカゲ類の仲間）であることが明らかになり、新属・新種、モロハサウルス・カミタキエンシスとして昨年記載報告されました。本種は同グループの世界最古、あわせて前期白亜紀からの初の報告となります。たった2cm程の小さな化石ですが、トカゲ類の進化や同グループの起源を探る上で重要な発見です。

今後も世界を驚かせる化石が篠山層群からは発見されるでしょう。今後の研究成果発信にどうぞご期待ください。

池田 忠広（地球科学研究グループ）



Morohasaurus kamitakiensis 生体復元図



2mm 頬側面（外側）



2mm 舌側面（内側）

標本写真：左歯骨（下顎の一部）化石

トピックス

新入研究員紹介



「今」立っている場所が、遠い「過去」にどんな風景だったのか。どんな生き物や人々が行き交ってきたのか。「未来」は？。その手がかりとして、地層の中から見つかる小さな生き物「珪藻」の化石を研究しています。ひとくから見える新たな風景が楽しみです。

主任研究員 廣瀬 孝太郎



徳島の博物館からやってきました。専門は昆虫学で、カメムシ類を研究対象にしています。ひとくでは、これまでの経験を生かして、昆虫コレクションの整備や昆虫の魅力発信に努めていきたいと思っています。

主任研究員 山田 量崇



白亜紀に生息していた脊椎動物の化石を研究しています。大昔の生き物の化石を発掘し、研究する楽しさを来館者の皆様に伝えられるように頑張りたいと思います。

研究員 田中 公教



国内外のツユクサのなかまを研究しています。身近なところから熱帯雨林まで、いろいろな種類がいて謎も多いですが、1つずつはつきりさせていきたいと思っています。秋の新収蔵庫オープンに向けても頑張ってます。

研究員 李 忠建

